

事務事業名	農業集落排水使用料賦課・徴収事務			担当	上下水道部 下水道課 農業集落排水係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり		増補版施策名			
施策名	2	下水道事業の推進		<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和62年度～） <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠	真岡市農業集落排水事業の設置等に関する条例						
予算科目	10. 農業集落排水事業特別会計	1. 農業集落排水費	1. 農業集落排水	1. 農業集落排水管理費			
事業概要	農業用排水の水質保全と農村環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全に寄与することを目的に設置された農業集落排水処理施設の、維持管理費用に充てるため使用料を徴収する事務である。 なお、平成19年5月賦課分から賦課徴収事務を真岡市水道事業者に委託している。 令和2年4月1日から地方公営企業法を適用することとなった						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 31年度実績 農業集落排水使用料の賦課徴収事務を真岡市水道事業者に委託しており、新規使用開始世帯及び休止世帯のデータを入力する。 2年度計画 賦課徴収については前年度同様。	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
ア	新規使用開始世帯数（調定増加件数）	戸	21	19	6	7	10
イ	調定件数（使用世帯数）	件	2,315	2,334	2,340	2,347	2,357
ウ	調定額	千円	108,047	108,017	107,701	106,394	104,626
エ							
オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 農業集落排水に接続している世帯	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
ア	農業集落排水接続世帯数	戸	2,315	2,334	2,340	2,347	2,362
イ							
ウ							
エ							
オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 維持管理費用の財源となる使用料を払っていただく	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
ア	徴収額	千円	104,178	104,016	103,955	92,784	85,375
イ	徴収率	%	96.4	96.3	96.5	87.2	89.8
ウ							
エ							
オ							
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） ・快適で衛生的な生活環境の保全と公共用水域の水質汚濁防止	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
ア	農業集落排水事業区域水洗化率	%	91.1	91.8	91.9	92.2	92.4
イ	市全体の水洗化率（公共・農集・浄化槽）	%	76.6	77.6	79.2	80.0	81.6
ウ							
エ							
オ							

(2) 総事業費の推移		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	3,802	3,777	3,803	3,559	3,594
		一般財源	千円	0	0	0	0	0
	事業費計(A)		千円	3,802	3,777	3,803	3,559	3,594
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	400	400	400	400	400
		人件費計(B)	千円	1,661	1,660	1,668	1,617	1,617
	トータルコスト(A)+(B)		千円	5,463	5,437	5,471	5,176	5,211

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	市民の生活様式の変化に伴い、生活排水が農業用水や河川に流れ込み水質が悪化してきた。そのため、農村地域の集落（区）単位に生活排水を浄化する必要があり、農業集落排水事業を導入し、生活排水の浄化を図ったものである。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	・ 供用開始地区が増えたことにより、賦課徴収戸数が増えてきている。 ・ 計画戸数合計 2,721戸 当初(昭和62年度)賦課徴収戸数 52戸 31年度賦課徴収戸数 2,347戸 ・ 地区名及び 真岡地区 飯貝・昭和62年度 小林・平成元年度 粕田・平成5年度 供用開始年度（8地区） 小貝川東部・平成8年度 大沼・平成10年度 東郷・平成12年度 東大島・平成13年度 両沼・平成16年度 二宮地区（3地区） 二宮・平成10年度 鹿物井・平成11年度 二宮東部・平成21年度 ・ 平成19年5月賦課分から賦課徴収事務を真岡市水道事業者に委託している。 ・ 使用世帯数は増加傾向にあるが、1世帯あたり使用人数の減少により、平成27年度から使用料の調定額・徴収額が減少に転じている。 ・ 平成22年度から水道事業者では料金賦課徴収事務の民間委託を行うとともに、窓口延長（毎週水・金曜日の午後7時まで）と休日窓口開設（毎月第1・3日曜日の午前8時30分から正午まで）を実施し、利用者の利便性の向上を図っている。 ・ 令和2年4月1日から地方公営企業法適用により、会計が令和2年3月31日をもって閉鎖となったため平成31年度の徴収額が減少となった。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	・ 料金収納対策会議において、未納者の対策に力を入れるようにとの意見がある。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 生活排水の適正な処理による生活環境の向上と環境保全は重要な施策である。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 農業集落排水施設の利用者から、施設の維持管理費用に充てるため使用料を徴収している。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 農業集落排水施設の利用者から、施設の維持管理費用として使用料を徴収しているため適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 賦課徴収事務を真岡市水道事業者に委託しており、最も効果的な上水道給水停止により未納対策を実施している。自家水利用者について、戸別訪問等により収納率の向上に努める。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 財源が確保できないため、施設の維持管理が困難となる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない 水道料金賦課徴収事務
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない 賦課徴収事務を真岡市水道事業者に委託している。
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 賦課徴収事務を真岡市水道事業者に委託しており、これ以上削減はできない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 賦課徴収事務を真岡市水道事業者に委託しており、これ以上の削減は困難である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 農業集落排水施設の利用者からの使用料徴収であり、公平公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？ 普及促進による水洗化率及び調定額の向上を図るとともに、戸別の納入指導による収納率の向上を図る。																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							